

in the summer, whereas *Marginisporum aberrans* and *M. crassissimum* produce them in seasons other than summer. (2) Both *Amphiroa misakiensis* and *A. zonata* produce tetraspores which are relatively small, measuring 20–30 μ in diameter, whereas the species of *Marginisporum* produce relatively large tetraspores, measuring 50–70 μ in diameter. *Amphiroa dilatata* and *Lithothrix aspergillum* produce bisporangia whose size is, however, quite similar to that of tetrasporangia of *A. misakiensis* and *A. zonata*. (3) The *Amphiroa*-type of spore germination was observed in all of the species of *Amphiroa* and in *Lithothrix aspergillum*. On the other hand, the *Corallina*-type was observed in the species of *Marginisporum*. (4) The results of this study suggest that *Amphiroa* and *Lithothrix* are closely related each other, whereas *Marginisporum* is more closely related to *Corallina* than to *Amphiroa*.

□日本植物友の会：日本植物方言集（草本類篇）A5 版本文 375 頁，4500円，東京八坂書房。今まで樹木については方言集が出ている。また各地のフロラなどにのったものはかなりあったし、橘正一氏の、全国植物方言集 3 冊などの貴重な貢献もあったが、草でまとめたものとしては最初のものである。会員が協力して集めた方言 1 万余を整理し、昭和 41 年に文部省の助成を得て 500 部を印刷した。当時好評であったが普及するには部数が少なすぎたので、今回再度印刷された。

方言の記録は日本の文化の歩みを如実に伝えるもので、国家が主となって作るべきもの。それを一団体が実行した勇と労とに深い敬意を表したい。現在の標準的な種類（厳密ではないが）971 にこれらの方言を添記して五十音順に配列、夫々採集した地域も附記してある。また種類も五十音順に配列し、アイからはじまってワレモコウに終る。スギナ（ツクシ）やヒガンバナは 6 頁、イタドリにいたっては 8 頁をこえて方言が並び、正に壮観であって、これらはまことに貴重な資料に違いない。またイヌノフグリにイヌノキンタマとホシノヒトミという両極端な名が並んでいて、特に目的を持たずにひらくことも楽しい本である。本書が最初の調整された資料であるだけに惜しいと思うことは、整理に手落ちとみられるものがあることだ。たとえばレイシ（ムクロジ科）と本本名をあげたのもおかしいが、その下の方言はウリ科のツルレイシのそれが入っている。また、ヤマブドウは恐らくエビズルがまじっているようし、ノブドウとさえ混淆があるらしい。静岡賀茂でウシブドーと両方をいうようになっているなど、これらは現地の人には却って詳しく区別している筈で、採集か整理の段階で混乱してしまったものであろう。こういう風に間違いがわかるのはまだよいが、私達の知らない方言のデータこそ貴重であり、参考資料になるのだが、それにこんな誤りが内蔵されているかも知れないとあっては残念ではすまないことである。機会をえて再整理をおねがいしたい。

（前川文夫）